

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1492500028
法人名	株式会社 ウイズネット
事業所名	みんなの家 逗子
訪問調査日	平成20年1月29日
評価確定日	平成20年3月5日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 20年 2月 15日

【評価実施概要】

事業所番号	第1492500028号
法人名	株式会社 ウイズネット
事業所名	みんなの家 逗子
所在地	逗子市新宿 4-16-1 (電話) 046-870-5655

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵠沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成20年1月29日	評価確定日	平成20年3月5日

【情報提供票より】(平成 20年 1月 4日事務所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 1月 1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人	
職員数	18人	常勤 6人	非常勤 12人	常勤換算 6.0人

(2) 建物概要

建物構造	(軽量鉄骨)造り
	2階建ての (1)階 ~ (2)階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	64,000 円	その他の経費(月額)	2,130 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 120,000 円	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	350 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (1月4日 現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	名	要支援2	1 名		
年齢	平均 86 歳	最低	75 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	湘南記念病院、湘南記念逗子クリニック、中川歯科診療所
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームはJR逗子駅からバスで15分の所にあります。オープンして1年を迎えた新しいホームです。運営法人の株式会社ウイズネットが、横浜、川崎など20ヶ所以上のグループホームとともに管理しています。この管理により職員の教育体制やマニュアルなどは整備されています。

開所後日が浅いので地域との交流はこれからの部分もありますが、職員が地域の人たちで構成されているのでその点は十分補っています。

入居者が重度化した場合、医療連携体制について看取りに関する考え方や本人及び家族への意思確認の方法など同意書で明確にされており、家族に安心感を与えています。外出には施設から10分ほどに新鮮な魚貝類が手に入る小坪港があります。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>平成19年2月に開設され、今回の評価が初回です。交替した現在のホーム長は着任後、日は浅いが経験豊富で職員の研修には非常に熱心で、多くの研修会を定期的開催しています。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>法人のスーパーバイザーを中心にホーム長、スタッフ全員が参加し、評価のねらいや活用方法について理解し、ケアを振り返ることにより、新しい気づきを見つけたり、見直しをすることによりサービスの向上を図っています。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>開設1年未満ということもあり、会議を通して市の担当者と情報交換し、施設の状況を理解してもらっています。隣接する町内会館を利用して認知症などについての勉強会の開催を検討したり、自己評価について説明し、報告しています。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営推進会議、家族会、家族の面会時など様々な機会を通して家族からの要望、意見、苦情などを把握している。ケアプラン会議などで取り上げ、本人、家族、担当者、ケアマネなど交え、十分説明し納得のうえ、本人の支援に反映している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の自治会や運営推進会議、家族会などを通じて地域と交流している。ホーム長は着任後日が浅いが、今後は隣接している町内会館を利用して、家族や地域住民の町内会と認知症などについての正しい知識と理解を啓発する勉強会を開催したり、認知症の介護予防活動を実施する取り組みをはじめている。2月に開所1周年イベントを開催し、家族、地域の人達を招待する予定である。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で作った理念「地域に根ざした 明るく楽しいホーム創り」が法人の理念である「必要な人に必要サービスの提供を」とともに玄関にさりげなく掲示されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域住民との交流を進めてはじめて、地域の中でその人らしく暮らし続けることが実現でき、職員が笑顔の中に楽しさ、喜びを感じながら利用者を支援することで利用者も安心して暮らすことができるということを意識している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議、近隣の自治会、家族会などを通じて地域と交流し、避難訓練などにも協力して頂いている。開設後1年を向かえるところで、現在のホーム長が着任して日も浅いが地元の住民でもあるスタッフは利用者と一緒に近くのコンビニへ買物や散歩に出掛けたりして地域にとけこんでいる。		同法人の豊富な研修内容を利用して、認知症はじめ介護関係の知識を地域の勉強会や相談会を開催し、役立てることが望まれます。これにより施設に対する理解や交流を深めていく事が期待されます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフ全員とホーム長、スーパーバイザーが参加し、評価の狙いや活用方法について理解し、2週間かけて検討会を開いている。評価のプロセスを通しケアに対して求めるものは全員一つであることを強く認識し、スタッフが求めるサービスの質について改善に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には積極的な呼びかけにより地域包括支援センター、民生委員、市の福祉課、家族、本人とともに協力病院のクリニックも参加されそれぞれの各立場より取組などの活動報告が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議を通して市の福祉課の担当者と情報交換している。また1ヶ月に1~2回福祉課を訪問し、施設の状況報告や相談しながら協働関係を構築している。		福祉課の理解と支援をバックに現在市内にある4つのグループホームとネットワークを作り、お互いの協力と問題解決に役立てるよう期待されます。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日々の様子、医者からの所見、レクリエーションの予定・実施、金銭管理の報告などの4つに分けられた「一言通信」を送付し、家族の訪問時や毎月定期的にお知らせしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会、面会時、電話連絡時など様々な機会を使って家族・本人からの要望、意見、苦情などを受止めている。ケアプラン会議の時にも取上げ、更新時期やそれ以前でも本人、家族、担当者、ケアマネ等を交え説明し、変更するなど運営に反映している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者に馴染みの担当職員を配置し、安心したケアが受けられるよう、固定化している。離職を最小限に抑える努力を常にしており、引継ぎ時は時間を掛けたり、以前に退職した馴染みの元職員にきてもらい、利用者のダメージを極力防ぐ取組みをしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人内のホーム長会議をはじめ、職員の交換研修などの事業により、職員各自に応じた段階的な学習を実施している。非常勤を含めた全員参加の定期研修により、サービスを向上させている。また外部から講師を招き、計画的な研修も実施されている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市内には同施設を含めて、4つのグループホームがあるが、まだ連絡協議会は誕生していない。しかし同法人の他の施設とは、ホーム長会議はじめ多くの研修会があり、常に交流する機会をもち、職員交換研修会などの相互訪問等の活動を通してサービスの向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所する時の窓口は同法人の本社を通して相談から利用に至るまで専門の担当者がホーム長とともにお世話している。家庭を訪問し、話し合いの上、施設を本人と家族が見学し、理解してもらった段階で生活支援の工夫を検討し、本人の安心と納得を十分に確認して見極めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	最初のアセスメントを重視し、本人の趣味、特技、生き方等の生活歴を十分把握した上で、その人のできることを探して生きがいを持つように支援している。また、なかなか寝られない人には添い寝したりして利用者の楽しみ、苦しみを聞いてともに支えあう関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中での利用者本人の言葉遣い、表情、行動などから、本人の直接言葉にしづらい心のうちの希望や意向を汲取ってやれるように努めている。また、家族が面会に見えた時などに情報を得るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	自分らしく暮らせるように、本人の希望や家族の要望を、カンファレンス等で話し合い、介護計画を立てている。その話し合いの場で、家族と施設との間で意見が食い違った場合は、アセスメントや意見交換、モニタリング等を、家族を含めて十分に行い、本人の希望に沿うようにしている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	今の状態を一日でも長く保ち続けたいという利用者の思いを実現させるため、職員は常に家族や本人の様子、情報を取り入れ、期間が終了する前であっても、変化があった場合には、見直しを行っている。その際、本人、家族、ホーム長、担当者を交え、十分な話し合いを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に対して臨機応変に対応している。また医療連携体制を活かし、できるだけ利用者の意思を尊重した終末期の対応が実現できるよう柔軟な体制で臨んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に、内科、歯科、薬局等について十分説明し、納得していただいた方には施設の協力医と契約してもらっている。以前からのかかりつけ医を希望される方には、家族と協力し、受診できるようにしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の際に十分に説明を行っており、重度になった場合(医療的な介護が多くなった時)は、本人や家族の気持ちを大事にしながら、医師と話し合いを持ち、利用者に関わる全員が方針を共有して、できるだけ希望に沿えるようギリギリのところまでの支援を心がけている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室のドアの小窓には職員手作りの暖簾があり、プライバシーは守られている。個人情報の使用に当たっては、家族の同意を得た上でやっている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々利用者との密接な関係の構築を図っている。進んで元気な頃の話や昔話などに耳を傾けることで、一人ひとりの個性を受け止め、利用者自身の自己決定を後押しする支援を心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力の範囲で、食事の盛り付けや配膳などを一緒に行っている。職員も同じテーブルに着き、一緒に食事を取っている。また、BGMを流し、気分が和やかになるよう配慮されている。ただ、使用されているのが皆同じ食器な為、一人ひとり今まで使っていたものやなじみの物を使うようにしてみたいかがでしょうか。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜以外は午後2時から、毎日入浴できるようになっている。また、本人の希望にあわせ、夜間でも入浴できる。1対1の対応で、職員とじっくりコミュニケーションできる時間でもあり、利用者個々の気持ちがほぐれることを願って支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の関わりの中から、一人ひとりの生活歴や趣味などを見出すことで、利用者の潜在している力や記憶を活かし、それぞれにお願いできる仕事を頼むようにしている。編み物、ちぎり絵など、手仕事が好きな方には、声かけしてやってもらっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や本人の気分、体調に合わせて、職員の付き添いの下、散歩や買い物に出かけている。また、季節の変化を感じ取ってもらえるよう、日帰り旅行を企画したりして、気分転換が図れるよう心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施設内は、それぞれの居室も含めて施錠されることなく、開かれた生活空間を実現しているが、玄関については、すぐ外が道路になっていて危険なため、家族には説明の上理解をいただいて、施錠している。		利用者一人ひとりの傾向を掴み、出て行く気配を職員が見落とさない見守りや連携プレーによる鍵をかけない支援が期待されます。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルを作成する一方、年2回、消防署の指導の下、利用者と共に避難訓練を実施し、避難経路の確認、消火器の使い方訓練などを行っている。地域の協力体制については、運営会議や施設の2周年記念のイベントがあるので、その際に、呼びかけをしていく予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況をチェック表に記入し、職員間で情報を共有している。利用者に状態等の異常があった場合は、医療機関に相談し、早め早めの対応をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には畳が敷かれ、炬燵があり、ゆったりとくつろげるようになっている。また適度のおしゃべりや日常の暮らしの音が耳に心地よく届いてくるといった感じで、自然な生活感が実現されている。さらに植物等の緑があれば、視覚的にも安らぎが出てくると思います。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、仏壇、アルバム、手紙など、使いなれた物を持ってきてもらっていることで本人が安心して過ごせるよう配慮している。また植物の好きな方には、部屋に鉢を置き、気持ちに安らぎが得られるよう配慮している。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム みんなの家 逗子
(ユニット名)	1ユニット
所在地 (県・市町村名)	神奈川県逗子市新宿4 - 16 - 1
記入者名 (管理者)	船本 重人
記入日	平成 19 年 12 月 31 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	会社の運営理念を入居案内時に説明文書及び玄関の見やすいところに明示し、入居者様及びご家族に分かりやすいように説明している。また、ホーム独自の運営理念を職員全員で作り日々頑張っています。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を常に意識し、共有、実践できるよう努力している。毎日の申し送り後に理念を読んで一日を初める様にしている	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族様には入居時や面会時になどに理念を伝え理解を頂いております。一言通信にてもご家族様に伝えている。また市役所や他の事業所等に等事業所のパンフレット等配布している。地域に向けての啓発、広報活動は前ホーム長が行ってきた。また、	
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に散歩に出かけて近所の人とお話をしたり気軽に立ち寄ってもらえるように雰囲気づくりに心がけている。隣の会館を利用して地域とのお付き合いも行なっている。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ご近所の自治会に参加、家族会、誕生日会など通して交流を深めるようにしているもまだ、十分とは言えない。	認知症についての地域学習会の開催。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議等の中で高齢の方の抱えている問題等話し合っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフ全員で自己評価も行なった。また、スタッフの意識も変わった。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議席で協力医院のDr、自治会、ご家族、市役所の方等招き話し合いを行いサービスの向上に努めるよう努力をしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議、状態報告、研修等、その他月に一度市役所に行き施設の状況を報告するなど努めている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護成年後見制度について勉強不足です。		勉強会を開くか資料を配付し周知を図っていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在、虐待の事実はないが十分注意を払い防止に努めている。自己決定の尊重、コミュニケーションを図っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時ご家族様やご利用者様に納得して頂けるように説明しています。また、面会時等に抱えている悩みや不安があれば聞かせて頂き理解するように努めています。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望、苦情の箱の設置。その都度、問題解決に向け申し送りやカンファレンス等で話をしています。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、月初めから中旬にかけて、各ご家族様宛にDr(内科、歯科)の所見・生活の様子・金銭など報告をかねて一言通信を遅らせて頂いています。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談、苦情等ホーム内に窓口があります。ご家族様へは利用方法を文書と口頭にて説明しお伝えしております。また、お客様相談室は本社にもあります。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各フロア会議や全体会議の中で意見や提案は交換するよう努めます。また、個人面談の実施。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況に応じて管理者が勤務調整を行っている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職の際はご利用者様に影響が出るので、必要最小限の配慮をしています。(ボランティアで来てもらうなどで来てもらうなど)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部の研修機関に参加している。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同会社の施設のグループホームとレクや行事に参加してサービスの向上について話し合いをしている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	2～3ヶ月に一回は個人面談をしてコミュニケーションを図り相談や悩みを聞くようにしている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	施設での勉強会や外部からの講師を招き勉強会をするなどして向上心を高めるよう努めている。休憩時間をスタッフ同士決めて作っている。		2月から同会社のグループホームと交換研修などして向上心を高めて行く予定。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談でこれまでの生活歴等を聞き、ご本人様の求めている事、不安なことを理解し受け止める努力をしています。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会時、一言通信、電話等でご家族とのコミュニケーションを取り、どんなことでも対応できるよう、皆で話し合いながらご家族との信頼を深めるよう努力している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の電話や面会に来られた際、その時のご本人様の状態等を把握し、様々な観点から考えたサービスの提供を行うよう努力しています。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人様、ご家族様が見学に来られて時この雰囲気をみて頂き施設の説明を行い他のご利用者様、職員とお話しされ場の雰囲気に馴染めるようにご家族と相談しながら生活支援の工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護する側、される側という関係でなく、ひとつの家族という関係になり、個々に合わせた生活が送れるように努力している。日常生活において常にご利用者様を巻き込んだ生活をする事でご利用者様が生きがいや意欲を持って頂く。(掃除、配膳、食器洗い、洗濯、水まき等)		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とより良い関係を築くため、不安や疑問等への速やかな対応を心掛けています。また、ご利用者様の情報もご家族から聞いている。		
29	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご利用者様の日頃の状況を報告、相談すると共に面会時にはご利用者様とご家族様との間が良い関係が築いていけるよう行事等参加して頂いている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方たちも気軽に来て頂けるよう配慮しています。(馴染みの美容院へ行くなど)		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個別に話を聞いたり食事時はテレビを消して会話をしながら食事したり、散歩や買い物に出かけるなどして孤立しないよう職員心掛けています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後も行事等声掛けをして参加して頂くよう努力しています。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の希望・要望は早めの対応を心掛けています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実調時に生活歴、生活環境、病歴等をお聞きしてこれまでの暮らしの把握をしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ご利用者様一人一人の生活のリズムを理解し日々の行動よりご本人様の全体像を把握するよう努めています。また、面会時に情報の聞き取りをして共有しています。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスで話し合い・アセスメントによりご家族の同意を得ています。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご本人様やご家族様の思いや意見を聞き、アセスメント、カンファレンス、モニタリングをして介護計画の作成に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活記録に食事量、VS、入浴等日々の生活の様子を記録している。ご利用者様の状態の変化など申し送りにて情報共有している。		対応が送れないように努める。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医院の往診が受けられる体制があり、電話連絡、往診等の対応でご利用者様の安心安全が保たれるよう支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を通し、地域の方や消防、ボランティア、にも協力を得よう努力している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理美容サービスを利用している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加される方々との関わりで協力を築く努力をしている。		今後は、もっと積極的に訪問しコミュニケーションを図っていく。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に、ご家族様、ご利用者様のご希望でどうしてもという以外は説明し納得して頂き提携の内科医へ移行して頂いています。(・1Fは第1、3の月曜日往診日。)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ご利用者様の状態変化等をご家族に様に随時報告し、必要に応じては専門医への受診を促している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護がいる為、日常の健康管理や医療活用の支援緊急時に対する勉強会も行うことが出来る。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された際は、面会に何回か行くようにしています。また、病院の方、ご家族様とも状況把握・相談に努めています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に説明している。ご家族様・ご利用者様・医師の合意で繰り返し話し合い、状態の変化があることにご家族の気持ちの変化に注意を払い、全員で方針を共有し支援につなげたいと思う。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	対応に対して可能なこと困難なこと不安なこと等を職員全体で話し合いながらご家族や医師と連携を図りながら支援できるようにと思っている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退居の場合、アセスメント、ケアプラン、サマリーの提供をすると共にご家族様への今までの感謝の気持ちを告げている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	退去時、入院時等一人一人のプライバシーの配慮をしている。他施設や医療機関等への個人情報を用いる際はご家族様の同意を得ている。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご利用者様の生活ペースに合わせ、その人らしく生活が送れるように支援している。また、その都度意向をお聞きしご入居者様の判断も仰いでいる。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の個性を大切に、「自己決定」「残存機能の活用」するなどしてご利用者様の意思を大切に支援しています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	馴染みのある行きつけの理美容院があれば言って頂き、特に要望の無い方は訪問理美容を提供するなどおしゃれへの配慮をしています。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の支度や配膳、下膳など一緒に行っています。また、お誕生日会や行事の際はなるべくお好みのメニューを提供出来るよう努めています。	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	その人らしく生活して頂くためにタバコ・お酒など状況を見ながら楽しんで頂けるよう支援しています。お茶の時間は好きなものを飲んで頂ける様メニューも考えています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用し一人一人の排泄パターンを把握しています。排泄への自立に向けた支援し健康面でのサポートもしています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1Fにはリフト浴が完備されているので一般浴が困難になった場合、1Fのリフト浴を使用する事が可能。一人一人の希望に合わせて入浴できるよう支援しています。夜間入浴も実施している。(20:00まで)場合によっては20:00以降も可能。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を増やし夜間は良眠出来るよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の潜在している記憶や力を活かし家事や趣味等役割を持って頂いています。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員の付き添いのもとで買い物の時、レジにて自分でお金を払って頂きおつりを確認して頂くなどの支援をしています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員の付き添いのもと散歩、買い物に出かけ、既設の変化を感じ取って頂いたり気分転換を図る支援をしています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	みんなで出かけたりご家族と出かけられたりと普段いけないところなど行って頂いています。		年に1～2回一泊旅行、日帰り旅行も企画していきたいと思う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様の希望があれば必要に応じて電話したり手紙のやり取りが出来るよう支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間を定めず、面会の際、居室等でゆっくり過ごせるよう配慮しています。お茶やお菓子の提供も行っています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。会議やカンファで確認しています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ご利用者様に心理的圧迫をもたらさないよう施錠はしていない。安全管理で施錠が必要際、ご家族様に説明しご理解頂いています。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、夜間に関わらず所在の確認を行っている。また、危険な箇所はないか確認している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意しなければいけない物品の保管は職員で把握し管理方法を決めている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	やはりはっと、事故報告書を記載し職員の共有認識を図っています。また、勉強会で周知している。会社が行なっている安全対策委員会にも参加している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応マニュアルを作成し見えるところに掲示し緊急時に備えている。		急変や緊急時の訓練や勉強会を行っていく予定。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防署の避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練をしている。平成20年1月18日(金)に実施予定。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	面会時に居室担当の職員から話をしたり、また、時には生活記録を見て頂くようにしています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を把握しており毎日2回定時にバイタルチェックを行い、体調の変化や早期発見に努めています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋を整理し職員が把握できるようにしている。内服時は飲み終わるまで確認している。また、薬剤師による勉強会も行っている。		
75	職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘気味の方面がいる場合、適度な運動、多めの水分摂取に心掛け自然排便を促している。また、医師への相談もしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨きの実施を行っている。月4回の歯科往診あり歯科医師、歯科衛生士の指導のもと支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表を活用し食事量のチェックをしている。また、状態や習慣も含め医療機関に相談支援をしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	協力医療機関の勉強会に参加し手いる。感染症のマニュアルを作成している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の賞味期限の確認をし賞味期限前に必ず使用している。また、まな板や布巾は毎日、漂白・消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には絵画を飾ったり、花を生けたりして家庭的な明るい雰囲気のある玄関になるように工夫している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、居間には季節感のある物を飾るよう心掛けている。フロアには手作りのカレンダーを作りご利用者が曜日、日にちが分かるようにしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはテレビや畳を敷きソファを置いて家庭的な共有の空間を作りをしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、使い慣れた日用品を持ってきて頂き、仏壇を持参されているかたもいる。アルバムや手紙を持参することで本人が心地よく過ごせるよう配慮しています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝の掃除時には窓を開け換気している。また、冷、暖房については、ご利用者様の状態を気にしつつ、冷やしすぎ、暖め過ぎないように心掛けています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、手すりも完備されているため安全で自立した生活が送れます。また、1Fは窓を開けると直ぐに外の出れる為花壇散策、日光浴を楽しまれる。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	声掛け、見守りをし、自分で出来ることは自分でやって頂き混乱や失敗を防ぎ自立して生活できるよう支援しています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周りは植木や花壇がある。外回りの清掃もご利用者様と一緒にしている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

内部、外部からの講師をお招きし勉強会や研修会を実施している。2月からは、同会社のグループホームの交換研修を予定している。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム みんなの家 逗子
(ユニット名)	2ユニット
所在地 (県・市町村名)	神奈川県逗子市新宿4 - 16 - 1
記入者名 (管理者)	船本 重人
記入日	平成 19 年 12 月 31 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	会社の運営理念を入居案内時に説明文書及び玄関の見やすいところに明示し、入居者様及びご家族に分かりやすいように説明している。また、ホーム独自の運営理念を職員全員で作日々頑張っています。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を常に意識し、共有、実践できるよう努力している。毎朝の申し送り後に理念を読んで一日を初める様にしている		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族様には入居時や面会時になどに理念を伝え理解を頂いております。一言通信にてもご家族様に伝えている。また市役所や他の事業所等に等事業所のパンフレット等配布している。地域に向けての啓発、広報活動は前ホーム長が行ってきた。		
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に散歩に出かけて近所の人とお話をしたり気軽に立ち寄ってもらえるように雰囲気づくりに心がけている。隣の会館を利用して地域とのお付き合いも行なっている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ご近所の自治会に参加、家族会、誕生日会など通して交流を深めるようにしているもまだ、十分とは言えない。		認知症についての地域学習会の開催。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議等の中で高齢の方の抱えている問題等話し合っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフ全員で自己評価も行なった。また、スタッフの意識も変わった。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議席で協力医院のDr、自治会、ご家族、市役所の方等招き話し合いを行いサービスの向上に努めるよう努力をしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議、状態報告、研修等、その他月に一度市役所に行き施設の状況を報告するなど努めている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護成年後見制度について勉強不足です。		勉強会を開くか資料を配付し周知を図っていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在、虐待の事実はないが十分注意を払い防止に努めている。自己決定の尊重、コミュニケーションを図っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時ご家族様やご利用者様に納得して頂けるように説明しています。また、面会時等に抱えている悩みや不安があれば聞かせて頂き理解するように努めています。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>要望、苦情の箱の設置。その都度、問題解決に向け申し送りやカンファレンス等で話をしています。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、月初めから中旬にかけて、各ご家族様宛にDr(内科、歯科)の所見・生活の様子・金銭など報告をかねて一言通信を遅らせて頂いています。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>相談、苦情等ホーム内に窓口があります。ご家族様へは利用方法を文書と口頭にて説明しお伝えしております。また、お客様相談室は本社にもあります。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>各フロア会議や全体会議の中で意見や提案は交換するよう努めます。また、個人面談の実施。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況に応じて管理者が勤務調整を行っている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動や離職の際はご利用者様に影響が出るので、必要最小限の配慮をしています。(ボランティアで来てもらうなどで来てもらうなど)</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部の研修機関に参加している。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同会社の施設のグループホームとレクや行事に参加してサービスの向上について話し合いをしている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	2～3ヶ月に一回は個人面談をしてコミュニケーションを図り相談や悩みを聞くようにしている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	施設での勉強会や外部からの講師を招き勉強会をするなどして向上心を高めるよう努めている。休憩時間をスタッフ同士決めて作っている。		2月から同会社のグループホームと交換研修などして向上心を高めて行く予定。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談でこれまでの生活歴等を聞き、ご本人様の求めている事、不安なことを理解し受け止める努力をしています。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会時、一言通信、電話等でご家族とのコミュニケーションを取り、どんなことでも対応できるよう、皆で話し合いながらご家族との信頼を深めるよう努力している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の電話や面会に来られた際、その時のご本人様の状態等を把握し、様々な観点から考えたサービスの提供を行うよう努力しています。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人様、ご家族様が見学に来られて時この雰囲気をみて頂き施設の説明を行い他のご利用者様、職員とお話しされ場の雰囲気に馴染めるようにご家族と相談しながら生活支援の工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護する側、される側という関係でなく、ひとつの家族という関係になり、個々に合わせた生活が送れるように努力している。日常生活において常にご利用者様を巻き込んだ生活をする事でご利用者様が生きがいや意欲を持って頂く。(掃除、配膳、食器洗い、洗濯、水まき等)		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とより良い関係を築くため、不安や疑問等への速やかな対応を心掛けています。また、ご利用者様の情報もご家族から聞いている。		
29	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご利用者様の日頃の状況を報告、相談すると共に面会時にはご利用者様とご家族様との間が良い関係が築いていけるよう行事等参加して頂いている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方たちも気軽に来て頂けるよう配慮しています。(馴染みの美容院へ行くなど)		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個別に話を聞いたり食事時はテレビを消して会話をしながら食事したり、散歩や買い物に出かけるなどして孤立しないよう職員心掛けています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後も行事等声掛けをして参加して頂くよう努力しています。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の希望・要望は早めの対応を心掛けています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実調時に生活歴、生活環境、病歴等をお聞きしてこれまでの暮らしの把握をしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ご利用者様一人一人の生活のリズムを理解し日々の行動よりご本人様の全体像を把握するよう努めています。また、面会時に情報の聞き取りをして共有しています。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスで話し合い・アセスメントによりご家族の同意を得ています。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご本人様やご家族様の思いや意見を聞き、アセスメント、カンファレンス、モニタリングをして介護計画の作成に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活記録に食事量、VS、入浴等日々の生活の様子を記録している。ご利用者様の状態の変化など申し送りにて情報共有している。		対応が送れないように努める。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医院の往診が受けられる体制があり、電話連絡、往診等の対応でご利用者様の安心安全が保たれるよう支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を通し、地域の方や消防、ボランティア,にも協力を得よう努力している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理美容サービスを利用している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加される方々との関わりで協力を築く努力をしている。		今後は、もっと積極的に訪問しコミュニケーションを図っていく。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に、ご家族様、ご利用者様のご希望でどうしてもという以外は説明し納得して頂き提携の内科医へ移行して頂いています。(・1Fは第1、3の月曜日往診日。)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ご利用者様の状態変化等をご家族に様に随時報告し、必要に応じては専門医への受診を促している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護がいる為、日常の健康管理や医療活用の支援緊急時に対する勉強会も行うことが出来る。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された際は、面会に何回か行くようにしています。また、病院の方、ご家族様とも状況把握・相談に努めています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に説明している。ご家族様・ご利用者様・医師の合意で繰り返し話し合い、状態の変化があることにご家族の気持ちの変化に注意を払い、全員で方針を共有し支援につなげたいと思う。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	対応に対して可能なこと困難なこと不安なこと等を職員全体で話し合いながらご家族や医師と連携を図りながら支援できるようにと思っている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退居の場合、アセスメント、ケアプラン、サマリーの提供をすると共にご家族様への今までの感謝の気持ちを告げている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>退去時、入院時等一人一人のプライバシーの配慮をしている。他施設や医療機関等への個人情報を用いる際はご家族様の同意を得ている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>ご利用者様の生活ペースに合わせ、その人らしく生活が送れるように支援している。また、その都度意向をお聞きしご入居者様の判断も仰いでいる。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>個々の個性を大切に、「自己決定」「残存機能の活用」するなどしてご利用者様の意思を大切に支援しています。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>馴染みのある行きつけの理美容院があれば言って頂き、特に要望の無い方は訪問理美容を提供するなどおしゃれへの配慮をしています。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の支度や配膳、下膳など一緒に行っています。また、お誕生日会や行事の際はなるべくお好みのメニューを提供出来るよう努めています。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>その人らしく生活して頂くためにタバコ・お酒など状況を見ながら楽しんで頂けるよう支援しています。お茶の時間は好きなものを飲んで頂ける様メニューも考えています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用し一人一人の排泄パターンを把握しています。排泄への自立に向けた支援し健康面でのサポートもしています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1Fにはリフト浴が完備されているて一般浴が困難になった場合、1Fのリフト浴を使用する事が可能。一人一人の希望に合わせて入浴できるよう支援しています。夜間入浴も実施している。(20:00まで)場合によっては20:00以降も可能。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を増やし夜間は良眠出来るよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の潜在している記憶や力を活かし家事や趣味等役割を持って頂いています。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員の付き添いのもとで買い物の時、レジにて自分でお金を払って頂きおつりを確認して頂くなどの支援をしています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員の付き添いのもと散歩、買い物に出かけ、既設の変化を感じ取って頂いたり気分転換を図る支援をしています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	みんなで出かけたりご家族と出かけられたりと普段いけないところなど行って頂いています。		年に1～2回一泊旅行、日帰り旅行も企画していきたいと思う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様の希望があれば必要に応じて電話したり手紙のやり取りができるよう支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間を定めず、面会の際、居室等でゆっくり過ごせるよう配慮しています。お茶やお菓子の提供も行っています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。会議やカンファで確認しています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ご利用者様に心理的圧迫をもたらさないよう施錠はしていない。安全管理で施錠が必要際、ご家族様に説明しご理解頂いています。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、夜間に関わらず所在の確認を行っている。また、危険な箇所はないか確認している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意しなければいけない物品の保管は職員で把握し管理方法を決めている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりはっと、事故報告書を記載し職員の共有認識を図っています。また、勉強会で周知している。会社が行なっている安全対策委員会にも参加している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応マニュアルを作成し見えるところに掲示し緊急時に備えている。		急変や緊急時の訓練や勉強会を行っていく予定。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防署の避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練をしている。平成20年1月18日(金)に実施予定。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	面会時に居室担当の職員から話をしたり、また、時には生活記録を見て頂くようにしています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を把握しており毎日2回定時にバイタルチェックを行い、体調の変化や早期発見に努めています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋を整理し職員が把握できるようにしている。内服時は飲み終わるまで確認している。また、薬剤師による勉強会も行っている。		
75	職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘気味の方面がいる場合、適度な運動、多めの水分摂取に心掛け自然排便を促している。また、医師への相談もしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨きの実施を行っている。月4回の歯科往診あり歯科医師、歯科衛生士の指導のもと支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表を活用し食事量のチェックをしている。また、状態や習慣も含め医療機関に相談支援をしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	協力医療機関の勉強会に参加し手いる。感染症のマニュアルを作成している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の賞味期限の確認をし賞味期限前に必ず使用している。また、まな板や布巾は毎日、漂白・消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には絵画を飾ったり、花を生けたりして家庭的な明るい雰囲気のある玄関になるように工夫している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、居間には季節感のある物を飾るよう心掛けている。フロアには手作りのカレンダーを作りご利用様が曜日、日にちが分かるようにしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはテレビや畳を敷きコタツを置いて家庭的な共有の空間を作りをしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、使い慣れた日用品を持ってきて頂き、アルバムや手紙を持参することでご本人が心地よく過ごせるよう配慮しています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝の掃除時には窓を開け換気している。また、冷、暖房については、ご利用者様の状態を気にしつつ、冷やしすぎ、暖め過ぎないように心掛けています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、手すりも完備されているため安全で自立した生活が送れます。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	声掛け、見守りをし、自分で出来ることは自分でやって頂き混乱や失敗を防ぎ自立して生活できるよう支援しています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダもあり時々日光浴したりする事もあります。		もっとベランダの活用をしたい。日光浴の回数を増やしたりお花を置くなどしたい。そうすると外に出る回数が増える。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

内部、外部からの講師をお招きし勉強会や研修会を実施している。2月からは、同会社のグループホームの交換研修を予定している。